Volt 4 Max

Volt 4 Max ハードウェアマニュアル



本書には、Universal Audio Volt 4 Maxのハードウェアコントロールおよび接続に関する完全な操作手順が記載されています。

はじめに
Voltクイックスタート
Voltの使用
Volt 4 Maxハードウェアの説明
Voltを工場出荷時の設定にリセット
Volt 4 Maxの仕様
注意事項

はじめに

Volt 4 Maxは、2基のTone Shapingプリアンプ、鮮明な視覚的フィードバックを提供するスマートディスプレイ、スピーカー切り替え機能、そしてMaxダイナミクスプロセッシングを備えた次世代のデスクトップUSBオーディオインターフェイスです。プロフェッショナルなスタジオの豊かで厚みのあるサウンドを、最小限のサイズに詰め込んでいます。伝説的なApolloインターフェイスを手がけたUniversal Audioのチームによって開発されたVolt Maxは、ボタンを押すだけでスタジオ品質のマイクプリアンプのトーンとクラシックなコンプレッションを提供します。本格的な制作を行う際には、完璧に調整された受賞歴のあるUADプラグインスイートとLUNA DAWをご利用いただけます。

主な利点

- **Tone Shapingプリアンプ**：デモ音源ではなく、レコード作品のような豊かで厚みのあるキャラクターが得られます。

- **Max Processing.** ボーカル、ギター、ベース用に調整されたクラシックなコンプレッサー・プリセットを使用して録音できます。
- **Full 32-Bit Audio.** 伝説的なUAのクオリティで、パフォーマンスを驚くほど精細にキャプチャします。
- **Expanded I/O.** ボーカルと楽器の同時録音に加え、MIDI経由での外部ハードウェア接続、ADAT経由での入力拡張が可能です。
- **スマートディスプレイ.** 明るく視認性の高いフィードバックにより、チャンネル選択とレベル設定をすばやく行えます。
- **Auto-Gain & クリッププロテクション.** 信号のピークでテイクが台無しになる心配はもうありません。
- **Easy to Use.** 使い慣れた音楽アプリを使って、すばやく接続し、録音を開始できます。
- **Premium UAD Software.** プロフェッショナルが使用するのと同じEQ、コンプレッサー、シンセサイザー、ギターアンプに加え、数々の賞を受賞したLUNA DAWをご利用いただけます。

機能

- プロフェッショナルな32-bit / 192 kHzオーディオ変換を備えた12イン / 6アウトのデスクトップUSBオーディオインターフェイス
- 60 dBのゲインと3つの倍音キャラクターモード（Warmth、Focus、Shine）を備えた2基のTone Shapingプリアンプにより、入力段階でクラシックなアナログマイクプリアンプの豊かなサウンドを実現
- **Max Processing** — LA-2Aや1176などの名機をモデルにし、ボーカル、ギター、ベース向けに6つの音楽的なプリセットを備えたオンボード・リアルタイムコンプレッション
- ToneとMaxの組み合わせにより、完全ノイズフリーで18種類以上のキャラクター設定が可能
- 2系統のマイク / ライン入力、フロントパネルの2系統のHi-Zインストゥルメント入力、および外部機器用の追加ラインI/O
- 2系統のモニター（MainとAlt）を切り替えるスピーカー・スイッチング
- スムーズなスタジオコミュニケーションを実現する内蔵トークバックマイク
- 最大8チャンネルのデジタル拡張に対応するADATまたはS/PDIFオプティカル入力、およびMIDI In / Out
- 周辺機器の接続や外部MIDIコントローラーへの電源供給が可能なオンボードUSBハブ
- ゲインリダクション・メーターを備え、明るく直感的な視覚的フィードバックを提供するフルカラーのスマートディスプレイ
- 常に最適な録音レベルを実現するAuto-Gainおよびクリッププロテクション
- モニタリングや共同作業に最適な、スタジオ品質の2系統のヘッドフォン出力（共有キューミックス付き）

- セッションのリコールや低レイテンシーのキューミックスを含む、UAD ConsoleアプリおよびLUNA DAWとの完全な統合
- ポッドキャスティング、ストリーミング、コンテンツ制作向けのループバック機能の内蔵
- コンデンサーマイク用の各チャンネルに独立した48Vファンタム電源
- Mac、Windows、iPad、およびiPhoneでの簡単なセットアップを可能にするUSBバスパワー駆動およびクラスコンプライアント対応*
- 長年の使用に耐えるように設計されたスタイリッシュで堅牢な構造

**Windowsシステムでは、UA Connectアプリで利用可能なASIOドライバーを使用します。バスパワー駆動の要件はモデルやデバイスによって異なります。Lightningデバイスへの接続には、Apple Lightning - USBカメラアダプタが必要です。*

Voltクイックスタート

使用を開始するには、Voltの登録、アップデート、バンドルソフトウェアおよびプラグインのインストールを管理するためのUniversal Audioアプリ、UA Connectをインストールしてください。初めてVoltを接続した際、新しいハードウェアのセットアップを支援するために、UA Connectにはオンボーディングチュートリアルが用意されています。

手動でセットアップを始める場合は、本セクションの指示とリファレンスに従ってください。

Voltのドキュメントについて

- ハードウェアのセットアップおよび操作手順については、本マニュアルを参照してください。
- ソフトウェアの設定および操作手順については、UAD Consoleマニュアルを参照してください。
- UA ConnectでVoltを登録し、付属のソフトウェアを入手する方法については、「How to set up your Volt Interface」を参照してください。

システム要件

Voltのシステム要件については、こちらをご覧ください。

はじめに

セットアップを開始するには、以下の手順に従ってください。

ハードウェアの設置

1. Voltを平らな場所に置きます。
2. VoltのHOSTポートをコンピューターのUSB 2.0以上のポートに接続します。Voltには、USB-C - USB-Cケーブルが付属しています。

ソフトウェアのインストール

1. uaudio.com/volt/start からUA Connectアプリをダウンロードしてインストールします。
2. UA Connectを起動し、アプリ内の指示に従ってVoltハードウェアを登録し、セットアップします。
3. ファームウェアのアップデートが利用可能な場合は、インストールします。
4. UA ConnectからUAD Consoleアプリをダウンロードしてインストールします。

注意：Windowsシステムで最適なパフォーマンスを得るには、UA Connect経由でVoltドライバーをインストールしてください。MacおよびiOS/iPadではドライバーは必要ありません。

Voltの使い方

Voltの各機能の使い方については、本セクションの概要をご覧ください。詳細については、ハードウェアの説明セクションに記載されています。

Voltの接続

モニタースピーカー、ヘッドフォン、および入力機器をVoltに接続します。詳細については、「Voltの接続について」を参照してください。

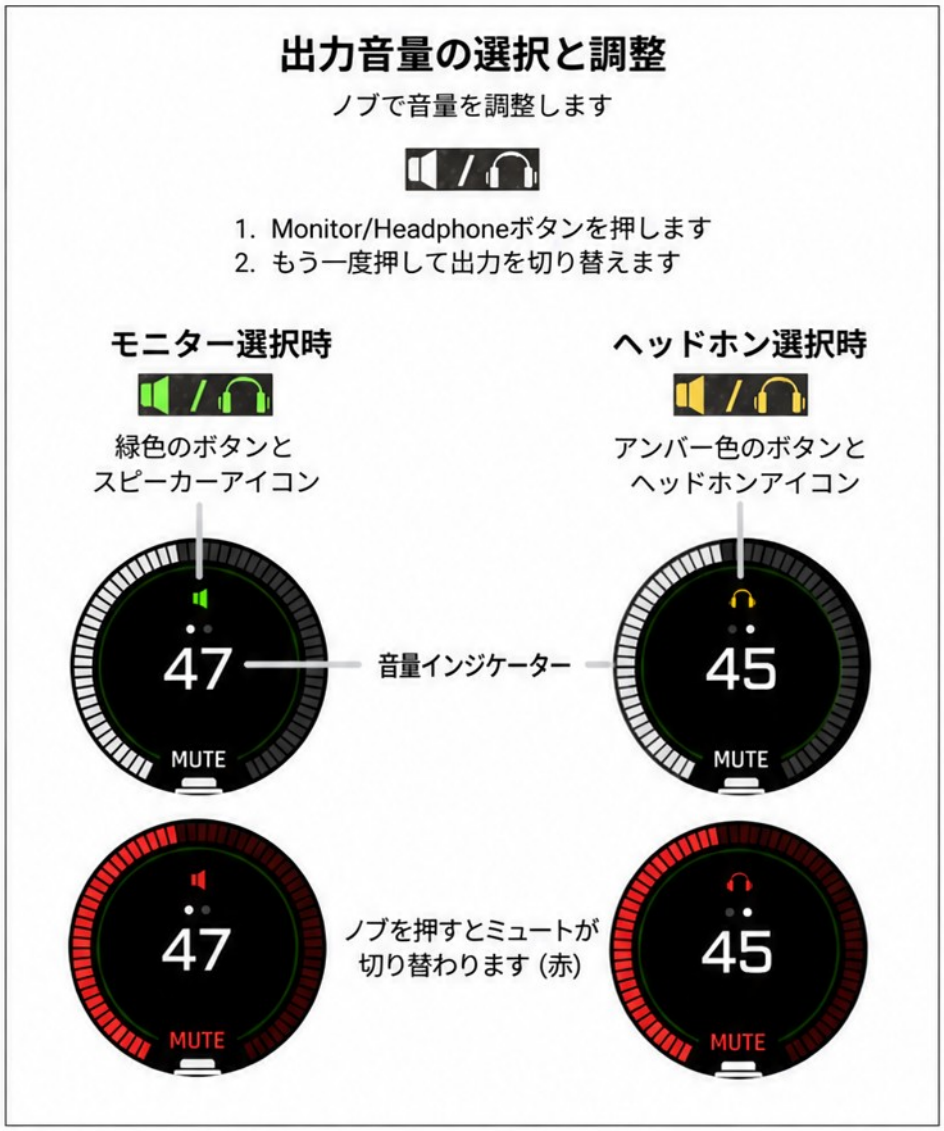
コントロールの概要

Voltのトップパネルには2種類のコントロールがあります。10個のプッシュボタンと、プッシュ操作に対応した大きなノブです。各ボタンには専用の機能があり、ラベルの色でアクティブな状態を示します。ノブは、MonitorsまたはHeadphonesがアクティブな場合は出力ボリュームやミュートを調整し、プリアンプ入力が選択されている場合はゲインやチャンネルリンクなどを調整します。ディスプレイには、現在の選択に応じて入力および出力情報が表示されます。

ヒント：各コントロールは、Volt Gen 2、Volt Max、およびVolt 876ハードウェアのコンパニオンアプリであるUAD Consoleアプリでも調整できます。

出力ボリュームの選択と調整

Voltのモニター出力とヘッドフォン出力のボリュームは個別に調整できます。出力ボリュームを調整するには、まずMonitor/Headphoneボタンで出力を選択し、次にノブでボリュームを調整します。

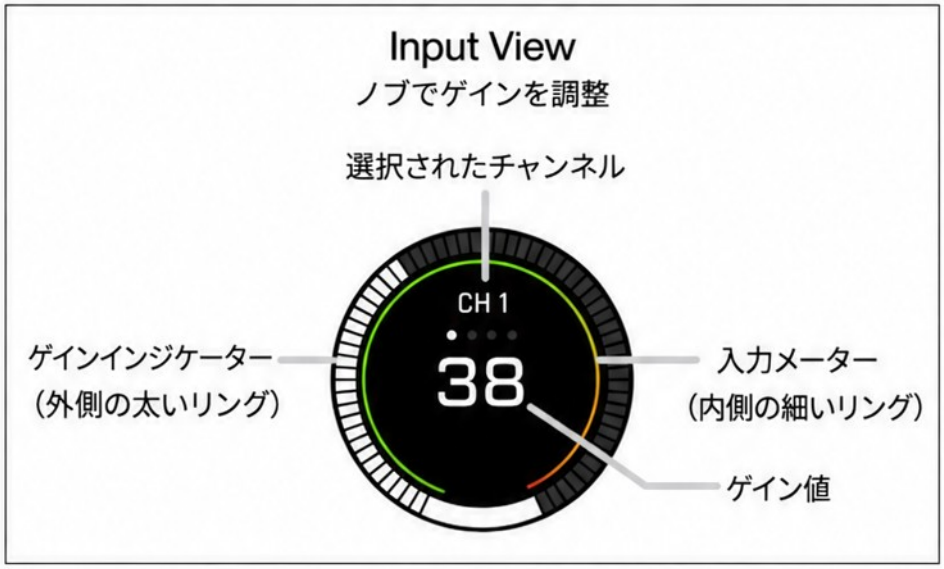


モニターモードの概要

- モニター出力とヘッドホン出力を切り替えるには、Monitor/Headphoneボタンを押します。次に、ノブを回して選択した出力の音量を調整します。
- 現在の選択状態は、ボタンラベルの色とディスプレイに表示されます。モニターが選択されている場合、ボタンラベルとスピーカーアイコンは緑色になります。ヘッドホンが選択されている場合、ボタンラベルとヘッドホンアイコンはアンバー色になります。
- 出力のミュートを切り替えるには、ノブを押します。ミュート時は、外側のボリュームリングが赤色になります。
- Headphone/Monitorモードがアクティブな場合、INPUT、DIM/TALK、ALT以外のすべてのボタンラベルが暗くなります。

入力の選択とプリアンプゲインの調整

Voltは、独立したコントロールを持つ複数の入力チャンネルを備えています。チャンネルのプリアンプゲインを調整するには、まずINPUTボタンでチャンネルを選択し、ノブでゲインを調整します。入力が選択されている状態では、各ボタンでその入力チャンネルを制御します。



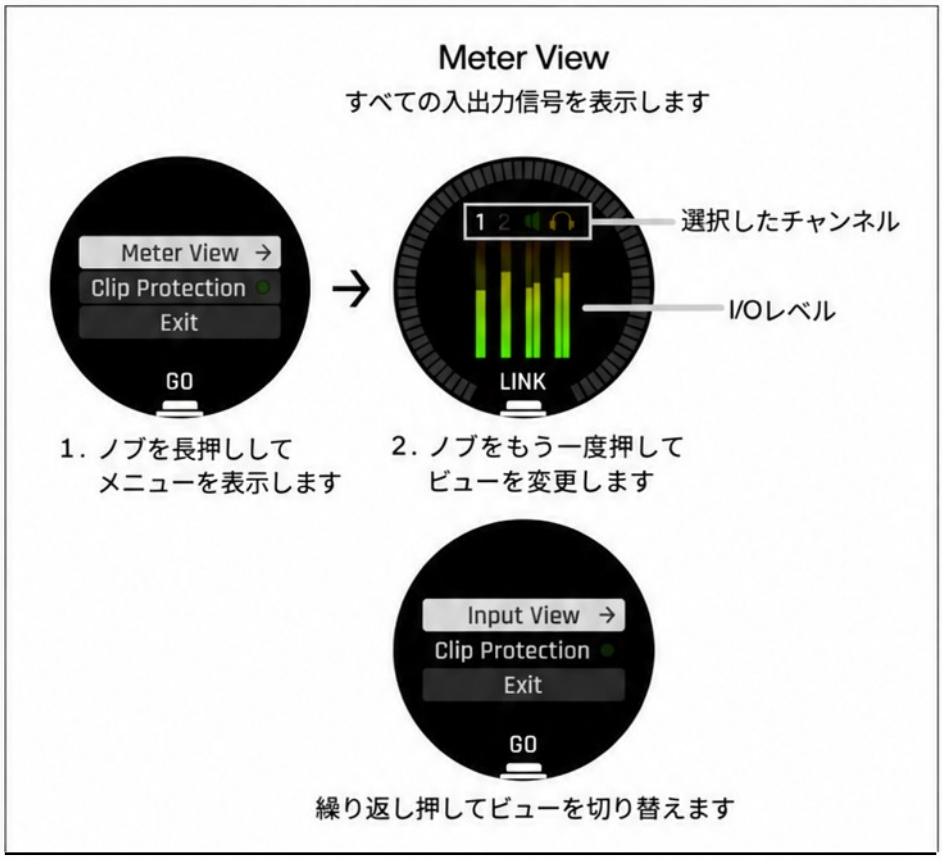
Input View

- ゲインを調整するには、ディスプレイにプリアンプのチャンネル番号が表示されるまでINPUTボタンを繰り返し押し、ノブを回します。
- 内側の細い緑色のリングは、チャンネルの入力信号レベルメーターです。入力信号のピークがレッドゾーンに達した場合は、プリアンプのゲインを下げるか、入力に接続されているデバイスの出力レベルを下げてください。
- プリアンプのゲインを自動的に設定するには、AUTOボタンを押します。

Meter Viewの選択

Meter Viewでは、すべての入力および出力の信号レベルが同時に表示されます。Meter Viewのままでも、INPUTボタンを使用して入力を切り替えたり、Monitor/Headphoneボタンを使用して出力を切り替えたりすることで、チャンネルのコントロールや出力音量を調整できます。

現在選択されている入力または出力チャンネルはメーターの上部に点灯し、チャンネルのゲインまたは音量は外側のレベルリングで示されます。



Meter view

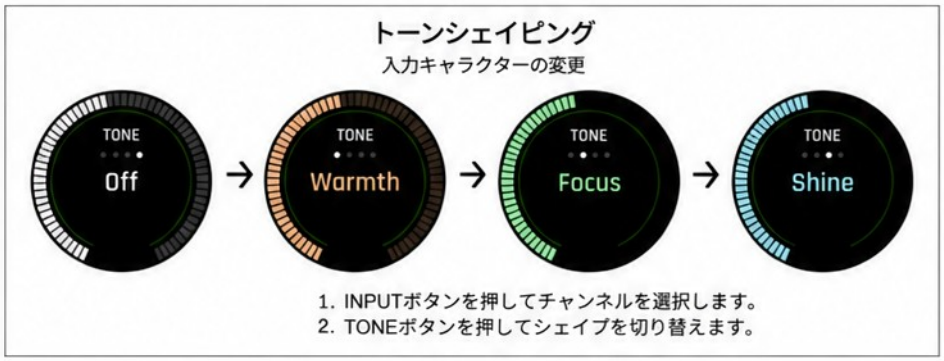
- Meter Viewに入るには、ノブを長押ししてメニューを表示し、Meter Viewがハイライトされたらノブを押します。
- Meter Viewを終了するには、ノブを長押ししてメニューを表示し、Input Viewがハイライトされたらノブを押します。

Toneの選択

Voltのすべてのアナログ入力には、クラシックなアナログマイクプリアンプのサウンドを提供する、Warmth、Focus、Shineの3つのキャラクターモードを備えたTone Shaping機能が搭載されています。各モードには、アナログハードウェアに由来するEQカーブとハーモニックサチュレーションが含まれています。ハーモニックサチュレーションは、入力のゲインを上げるにつれて増加します。

利用可能なToneを順番に切り替えるには、INPUTボタンを押して任意のチャンネルを選択し、TONEボタンを繰り返し押します。

ヒント：UAD ConsoleでToneを選択することもできます［UAD ConsoleのToneに関する記事へのリンク］。



トーンシェイピング

- ディスプレイの外周リングとTONEボタンのラベルの色は、現在の設定を反映して変化します。リングとボタンのラベルが白色の場合、トーンシェイピングはオフになっています。
- トーンリングとボタンの色は、選択した入力チャンネルに連動します。

以下の3つのトーンを利用できます：

- **OFF（白）**：トーンシェイピングなし。
- **Warmth（アンバー）**：UA 610チューブプリアンプを彷彿とさせる、ソフトなトランジェントと滑らかさを備えた、サチュレーションの効いたヴィンテージ真空管の温かみ。
- **Focus（緑）**：クラシックなアメリカ製のソリッドステート・コンソールを彷彿とさせる、フォーカスと透明感を備えたパンチのあるトランジェントで、ドラム、ギター、ベースに最適です。
- **Shine（青）**：伝統的な英国製Class-Aコンソールを彷彿とさせる、シルキーな高域を備えた、音楽的で豊かなサウンド。

Maxコンプレッションの適用

Maxコンプレッションを使用すると、手動で音量を調整することなくダイナミクスをコントロールし、パンチ、透明感、バランスを加えることができます。Maxはすべてのアナログ入力で利用できます。6種類のプリセットは特定の用途に合わせて調整されていますが、どのプリセットもあらゆるソースのサウンドを向上させます。

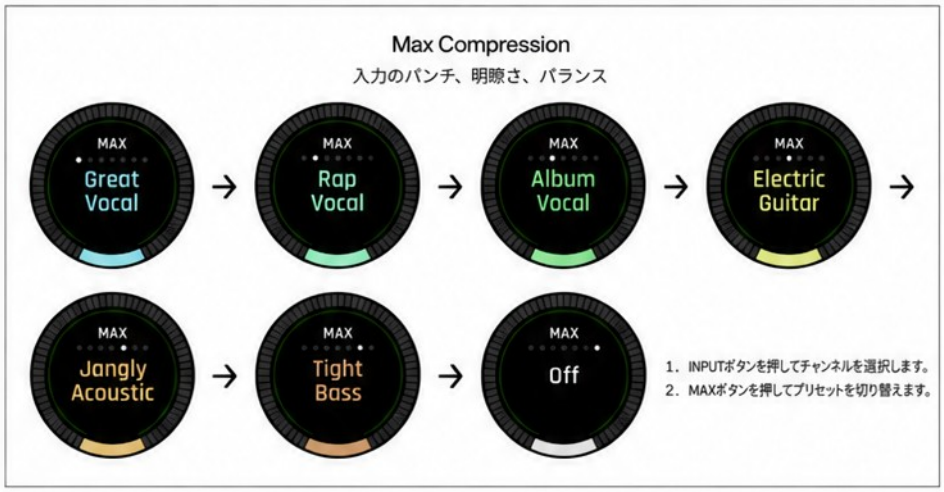
コンプレッションがアクティブな場合、スマートディスプレイにはそのチャンネルのリアルタイムのゲインリダクション・メーターが表示されます。

- 利用可能なMaxプリセットを切り替えるには、INPUTボタンを押してチャンネルを選択し、MAXボタンを繰り返し押します。
- MAXボタンのラベルとディスプレイ下部のアーク（円弧）の色は、現在のMaxプリセットを反映して変化します。
- UAD ConsoleでもMaxプリセットを選択できます。

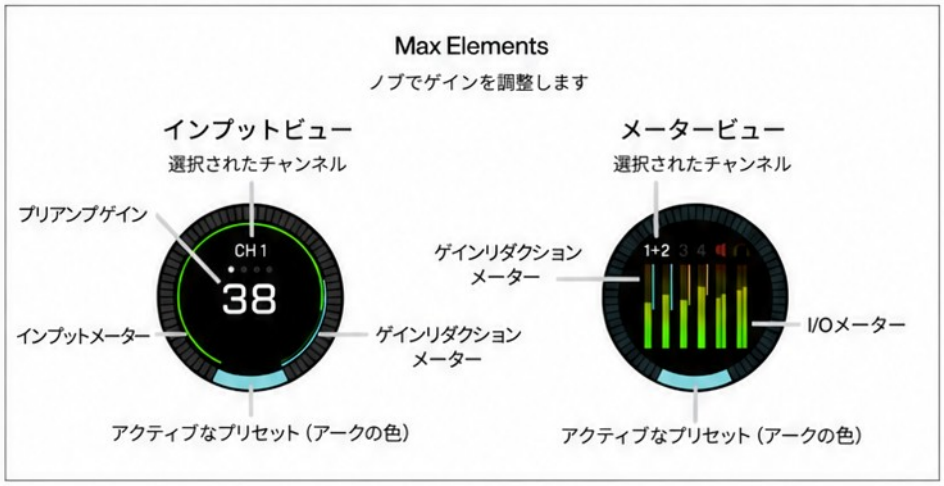
以下のMaxプリセットを利用できます：

- **Off**：コンプレッションなし。
- **Great Vocal**：スローアタック、ファーストリリース、ミディアムレシオの1176コンプレッションで、汎用性の高い優れたボーカルサウンドを実現します。

- **Rap Vocal**：アグレッシブなフォーカスを実現するリミッター設定のLA-2Aコンプレッションです。
- **Album Vocal**：ボーカル全体を滑らかにするための、スローアタック、ベリーファーストリリース、低レシオ設定の1176コンプレッションです。
- **Electric Guitar**：パンチがありつつも滑らかなエレクトリックギターサウンドのための、ミディアムアタック、ベリーファーストリリース、低レシオ設定の1176コンプレッションです。
- **Jangly Acoustic**：滑らかで温かみのあるアコースティックギターサウンドを実現するLA-2Aコンプレッションです。
- **Tight Bass**：太く丸みのあるベーストーンに合わせて調整されたVCAコンプレッションです。



Maxプリセット



Auto-Gainの使用

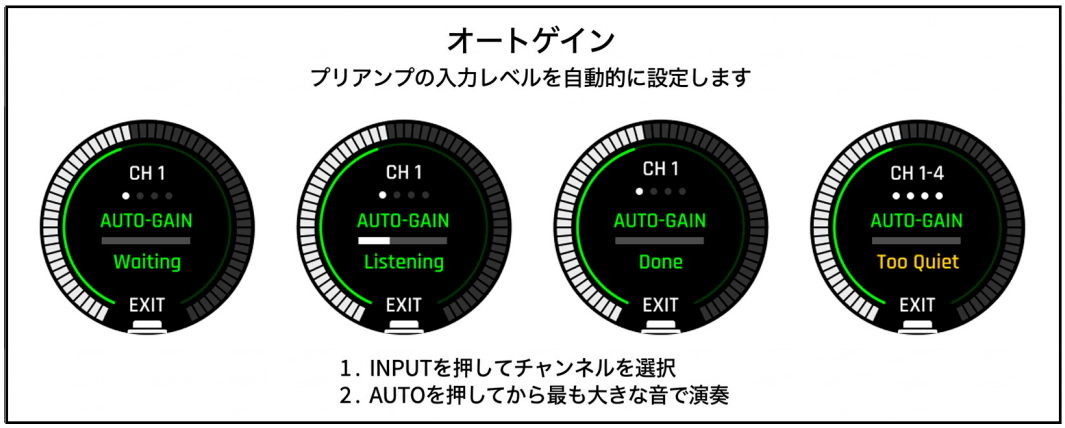
Auto-Gainは、入力信号に対して最適なプリアンプゲイン量を自動的に設定します。これにより、時間を節約し、手動で調整することなく適切なレベルで確実に録音できるようになります。

単一のプリアンプチャンネルまたはリンクされたチャンネルのゲインを自動的に設定するには：

1. INPUTボタンを押して、目的のチャンネルを選択します。

2. AUTOボタンを押します。ディスプレイにWaitingと表示されます。
3. 最大音量で少なくとも10秒間、演奏するか歌ってください。ディスプレイにListeningとプログレスバーが表示されます。

Auto-Gainが完了すると（10秒後）、レベルが設定され、ディスプレイは前の画面に戻ります。



Auto-Gainのディスプレイ表示

Auto-Gainのヒント

- すべてのプリアンプで同時にAuto-Gainを使用するには、AUTOボタンを長押しします。
- 入力信号レベルが不十分な場合、ディスプレイにToo Quietと表示されます。その場合は、より大きな声で歌うか演奏するか、入力に接続されているデバイスの出力レベルを上げてください。
- UAD ConsoleでAuto-Gainを開始し、関連する設定を調整することもできます。
- Auto-Gainは、録音に適したプリアンプのレベルを自動的に調整します。聴覚へのダメージを防ぐため、先に進む前にモニター音量が安全なレベルに設定されていることを確認してください。

ダイレクトモニタリングの使用

ダイレクトモニタリングでは、DAWを介してモニタリングする代わりに、入力信号を直接モニター出力およびヘッドフォン出力へ送ります。ダイレクトモニタリングを使用すると、レイテンシーを感じることなく、ライブ入力をリアルタイムで聴くことができます。ダイレクトモニタリングを使用しない場合、入力信号はDAWのバッファリングレイテンシーの影響を受けます。

ダイレクトモニタリングの切り替え

- 選択したチャンネルのダイレクトモニタリングをオン／オフするには、DIRECTボタンを押します。
- すべてのチャンネルのダイレクトモニタリングをオン／オフするには、DIRECTボタンを長押しします。

DIRECTボタンの表示は、チャンネルのDirectがオンの場合は緑色に、オフの場合は白色に点灯します。機能を切り替える際、ディスプレイにもその状態が短時間表示されます。



Directのオン／オフ

ダイレクトモニタリングを使用する理由

ダイレクトモニタリング（ハードウェアモニタリングとも呼ばれます）を使用すると、オーディオソフトウェアを完全にバイパスし、Tone ShapingやMaxコンプレッションがかかった入力信号を、レイテンシーなしでVoltハードウェアから直接聴くことができます。

Directをオフにしてオーディオソフトウェア経由で入力信号をモニタリング（ソフトウェアモニタリング）する場合、Voltのモニター出力やヘッドフォン出力から音が聴こえる前に、信号がソフトウェアを通過します。この際、信号はソフトウェアのI/Oバッファーを使用するため、レイテンシー（バッファーサイズが大きくなるほど増加する遅延）が発生します。

ソフトウェア経由でモニタリングしたくないソースを録音する場合（たとえば、DAWのプラグイン処理を通さずに、VoltのTone ShapingやMaxコンプレッションが適用されたボーカルや楽器を録音する場合など）は、ダイレクトモニタリングを使用してください。

ダイレクトモニタリングに関する注意点

- Directの音声には、入力のTone ShapingとMaxコンプレッションが含まれます（そのチャンネルで有効になっている場合）。
- Directがオンの場合、信号が二重になって入力音が細くなったり、「フェイジー（位相がズレた状態）」に聴こえたりするのを防ぐため、オーディオソフトウェアのソフトウェアモニタリング機能を無効にしてください。
- Directがオフの場合、DAWでのバッファリングや信号処理の結果として、入力音が聴こえるまでにレイテンシー（わずかな遅延）が発生することに気づく場合があります。
- DAWにロードしたプラグインで処理された入力信号を聴きたい場合は、Directをオフのままにしてください。
- Directのオン／オフ状態にかかわらず、入力信号は録音のために常にDAWへ送信されます。

UAD ConsoleでのDirectの使用

- UAD Consoleでは、Directがオンのときは入力のミュートが解除され、Directがオフのときはミュートされます。
- UAD Consoleで1つ以上のチャンネルがソロになっている場合、他のチャンネルのダイレクトモニタリング信号は聞こえません。
- Directがオンのとき、UAD Consoleで入力レベル、パンニング、Cueセンドをコントロールできます。詳細については、UAD Consoleマニュアルを参照してください。

入力チャンネルのリンク

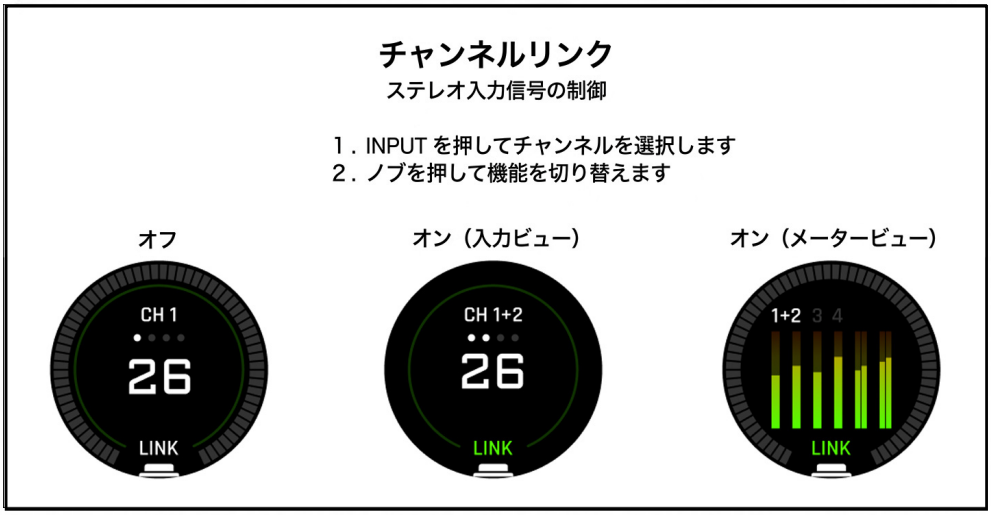
ステレオ動作用に入力チャンネルをリンクできます。入力がリンクされると、チャンネル設定は両方の入力に適用され、チャンネルペアはモニターバスで左右にパンされます。もう一度押すとリンクが解除されます。

隣接するチャンネルをリンクおよびリンク解除するには

- LINKボタンを押します。
- チャンネルのリンクを解除するには、LINKボタンをもう一度押します。

リンクに関する注意事項

- リンクできるのは隣接するチャンネルペアのみです。
- 異なる入力タイプ（例：1/4”とXLR）のチャンネルはリンクできません。互換性のないチャンネルをリンクしようとすると、INPUTラベルが赤く点滅し、ディスプレイにInput Mismatchと表示されます。
- リンクされたペアの片方のチャンネルの接続を外した場合でも、本体またはUAD Consoleでチャンネルのリンクを解除するか、異なるタイプの入力を接続するまでリンクは維持されます。



Talkbackの使用

DIM/TALKボタンは、内蔵トークバックマイクをオンにし、モニター出力信号のレベルを20 dB下げます（ディム）。DIM/TALKは通常、Cueを通じてパフォーマーとコミュニケーションを取るために使用されます。

- トークバックをラッチ（固定）または解除するには、DIM/TALKボタンを短く押します。
- トークバックとディムを一時的にオンにするには、ボタンを0.5秒以上長押しします（離すとオフになります）。
- 機能がアクティブな場合、DIM/TALKボタンは緑色に点灯します。

代替モニタースピーカーの使用

ALT機能を使用すると、2組目のスピーカーでステレオミックスをモニターできます。

- 代替スピーカーの左チャンネルをLine Out 3に、右チャンネルをLine Out 4に接続します。
- ALTボタンを押して機能のオン／オフを切り替えます。ALTボタンのラベルが緑色に点灯している場合、この機能はアクティブです。

重要：ALT機能によって既存のLine Out 3-4へのアサインが誤って上書きされるのを防ぐため、使用前にALT機能自体を有効化しておく必要があります。ALTボタンが消灯している場合、この機能はまだ有効化されていません。

ALT機能の有効化／無効化

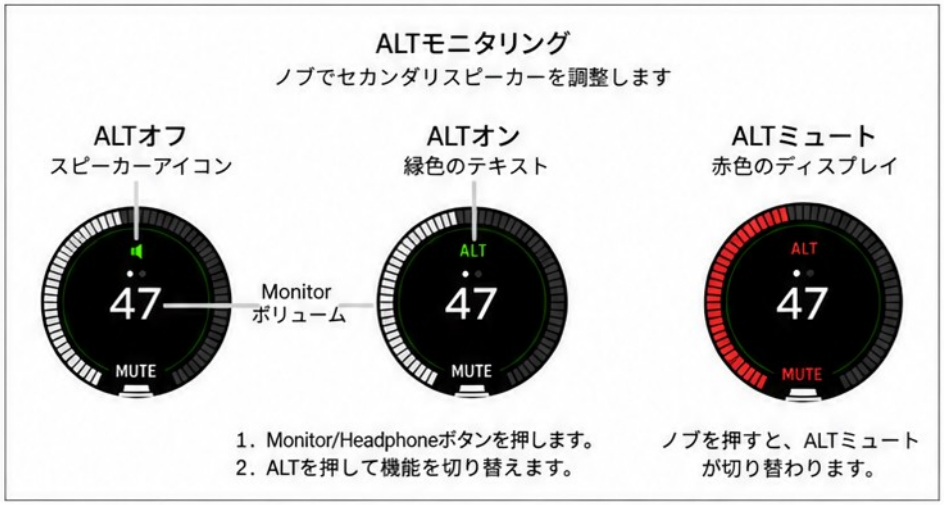
- **ボタン消灯時にALTを有効にする：**ボタンのラベルが点滅するまでALTを長押しします（約2秒）。
- ボタン点灯時にALTを無効にする：ボタンが点滅するまでALTを長押しします（約2秒）。

ヒント：UAD Consoleの設定で機能を有効／無効にすることもできます。

ALTモードがアクティブな場合

- ALTボタンのラベルが緑色に点灯します。
- プライマリーモニター出力はミュートされます。
- メインのステレオミックスはLine Out 3-4にルーティングされます。
- 以前Line Out 3-4にルーティングされていた信号は聞こえなくなります。

注意：ALTモードの切り替えによって上書きされたLine Out 3-4へのアサインは、再度アサインし直す必要があります。

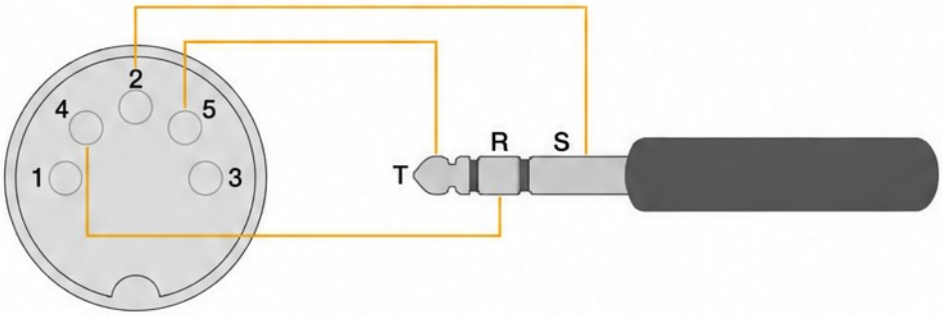


MIDIの使用

MIDI Type A 1/8インチ（3.5 mm）コネクターを使用して、MIDIデバイスを接続します。

MIDI接続図

MIDI Type Aでは特定の配線を使用します（MIDI Type Bとは異なります）。この図は、Voltに必要なMIDI Type Aの接続を示しています。



*MIDI Type A 5ピンDIN - TRS*配線図

MIDIデバイスの使用

macOSでは、MIDIデバイスはオペレーティングシステムによって自動的に認識され、Voltはその名前で識別されます。Windowsでは、UA Connect経由でVoltドライバーをインストールする必要があります。

オプティカル入力の使用

他の機器のデジタルオーディオ出力端子を、このTOSLINKオプティカル入力に接続します。

TOSLINKポートは、ADAT Lightpipeオプティカルインターフェイスまたは S/PDIFプロトコルを使用します。標準的なTOSLINKオプティカルケーブルを使用して、最大8チャンネルのADATオーディオ、または2チャンネルのS/PDIFオーディオを入力できます。

アナログ入力とは異なり、デジタル入力にはチャンネルコントロールがありません。デジタル入力の信号レベルは、Voltに接続されたデジタル機器の出力レベルを調整することで設定します。デジタル入力の信号レベルは、UAD Consoleで確認できます。

注意：Voltは、ADATまたはS/PDIFフォーマットのデジタルオーディオをサポートしています。デジタルオーディオフォーマットは、UAD Consoleの設定で選択できます。

より高いサンプルレートでは、高解像度のADAT転送を維持するために業界標準のS/MUXが使用されます。サポートされているサンプルレートは以下の通りです：

ADAT入力チャンネル

- 44.1/48 kHz：8チャンネル
- 88.2/96 kHz：4チャンネル
- 176.4/192 kHz：2チャンネル

S/PDIF入力チャンネル

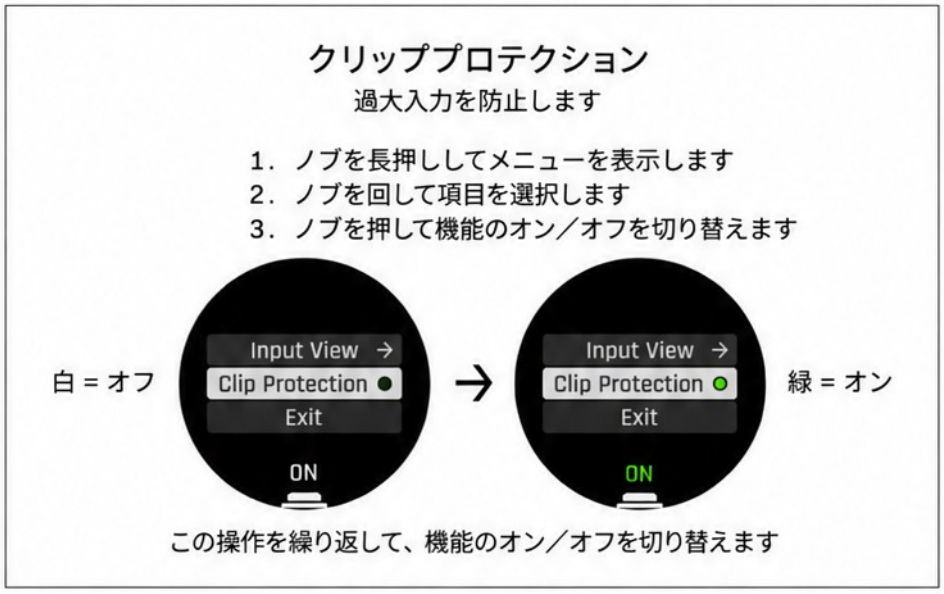
- サポートされているすべてのサンプルレートで2チャンネル

クリッププロテクションによるオーディオクリッピングの防止

クリッププロテクションは、プリアンプ入力での予期しない大音量信号が録音にクリッピングによるオーバーロード歪みを引き起こすのを防ぎます。クリッププロテクションはデフォルトでオンになっていますが、Voltのメニュー、またはUAD Consoleの設定から無効にすることができます。

クリッププロテクションのオン／オフの切り替え

1. メニューが表示されるまで、ノブを長押しします。
2. ノブを回してクリッププロテクションのメニュー項目をハイライトさせ、ノブを押して状態を切り替えます。
3. 有効になると、メニュー項目の横に緑色の点が表示され、ONが緑色に点灯します。



クリッププロテクションのメニュー項目

クリッププロテクションの仕組み

Volt Maxのクリッププロテクションは、信号がアナログ／デジタル・コンバーターに到達する前にハードウェアリミッターを適用し、プリアンプ入力での信号のクリッピングを防止します。

Voltの接続について

最適な結果を得るために、以下のケーブルを使用してください。

- ギターやベースをフロントパネルのインストゥルメント入力に接続する場合は、1/4”（6.35 mm）TS（チップ・スリーブ）ケーブル
- マイクをリアパネルのコンボジャック入力に接続する場合は、XLRケーブル
- キーボードやその他のラインレベルのオーディオソースをリアパネルのコンボジャック入力に接続する場合は、1/4” TRS（チップ・リング・スリーブ）ケーブル
- ステレオモニタースピーカーやその他のオーディオ機器をリアパネルのモニター出力およびライン出力に接続する場合は、1/4” TRSケーブル
- 1台または2台のステレオヘッドフォンをフロントパネルのヘッドフォンジャックに接続する場合は、1/4”および1/8” TRSヘッドフォンプラグ

バランス接続について

Voltのモニター出力およびライン出力、リアパネルの1/4”コンボ入力ジャックは、バランス対応機器に接続した場合にバランス接続として機能します。最適な結果を得るためには、TRS（バランス）オーディオケーブルを使用してください。バランス対応機器は、干渉や電気的ノイズを低減し、長いケーブル配線でも優れたオーディオ品質を提供するために、3芯配線を採用しています。
TS（アンバランス）接続は、電気的干渉ノイズが問題にならない短いケーブル配線に適しています。

Volt 4 Max ハードウェアの説明

このセクションでは、すべてのハードウェアのコントロール、接続、およびインジケーターについて説明します。

Volt 4 Max フロントパネル



Volt 4 Max フロントパネル

(1) インストゥルメント入力 1-2

ギター、ベース、その他のハイインピーダンス楽器をここに接続します。インストゥルメントジャックに接続した場合、リアパネルのXLR/TRS 1-2コンボジャックよりも優先されます。

ヒント：楽器の接続には、標準的な1/4インチTSインストゥルメントケーブルを使用してください。

(2) ヘッドフォン出力ジャック

これらの出力にステレオヘッドフォンを接続します。1/4インチ（6.35 mm）および1/8インチ（3.5 mm）のTRSヘッドフォンプラグに対応する、2つのヘッドフォンジャックが用意されています。どちらのジャックからも同じ信号が出力されます。

ヘッドフォン出力にはCUEミックスをルーティングできます。詳細については、UAD Consoleマニュアルを参照してください。

Volt 4 Max トップパネル



Volt 4 Max トップパネル

(3) トークバックマイク

内蔵トークバックマイクはここに配置されています。トークバックを使用すると、他のすべてのオーディオをディム（減衰）させながら、演奏者とコミュニケーションをとることができます。トークバックはDIM / TALKボタンでオンにします。詳細については、トークバックの使用を参照してください。

注意：トークバックマイクは高感度です。機器の損傷を防ぐため、マイクの穴に物を入れたり、圧縮空気を吹き付けたり、マイクの穴の上で掃除機を使用したりしないでください。

(4) スマートディスプレイ

この円形のディスプレイには、選択した入力チャンネルまたは出力に関する情報が表示されます。

詳細については、Voltの使用を参照してください。

(5) TONEボタン

選択した入力チャンネルに、サチュレーションとハーモニクスを伴うアナログスタイルのTone Shapingを適用します。

- 利用可能なトーンを切り替えるには、INPUTボタンを押して任意のチャンネルを選択し、TONEボタンを繰り返し押します。
- スマートディスプレイの外側のリングとTONEボタンのラベルの色は、現在の設定を反映して変化します。リングとボタンのラベルの色が白色の場合、Tone Shapingはオフになっています。
- トーンリングとボタンの色は、入力チャンネルの選択に連動します。

- トーンはUAD Consoleでも選択できます。

詳細については、「トーンの選択」を参照してください。

(6) MAXボタン

選択した入力チャンネルで利用可能なMaxコンプレッサーのプリセットを切り替えます。繰り返し押すと、6つのコンプレッサー設定すべてとOFFが切り替わります。

- MAXボタンのラベルとディスプレイ下部の円弧の色は、現在のMaxプリセットと一致します。MaxコンプレッションはUAD Consoleでも選択できます。

詳細については、「Maxコンプレッションの適用」を参照してください。

(7) 48Vボタン

選択したリアパネルのXLR入力に接続されたコンデンサーマイクに+48Vファンタム電源を供給します。ファンタム電源の投入中はラベルが赤色に点滅し、アクティブな場合は赤色に点灯、非アクティブな場合は白色に点灯します。

選択したチャンネルに1/4"プラグが接続されている場合、ファンタム電源は解除されます（ラベルは消灯します）。

注意：マイクを接続または取り外す前に、ファンタム電源をオフにしてください。ファンタム電源は、一部のリボンマイクを損傷する可能性があります。

(8) LINKボタン

押すと、ステレオ動作用に入力チャンネルのペアをリンクします。チャンネルがリンクされている場合、チャンネル設定は両方の入力に適用され、チャンネルペアはモニターバスで左右にパンされます。もう一度押すとリンクが解除されます。

(9) INPUTボタン

画面に表示され、他のコントロールで調整を行うアクティブな入力チャンネルを選択します。繰り返し押すと入力が切り替わります。長押しすると、ステレオ動作用にチャンネルをリンクまたはリンク解除します。

詳細については、「入力の選択とプリアンプゲインの調整」を参照してください。

(10) AUTOボタン

選択したチャンネルのAuto-Gainレベル検出を開始します。長押しすると、すべての入力に対して同時にAuto-Gainを設定します。詳細については、「Auto-Gainの使用」を参照してください。

ヒント：ギターおよびベースのモデリングプラグインで適切なレベルを設定するには、Hi-Zインストゥルメント入力に接続した楽器のゲインを最小（0）に設定してください。最適な結果を得るため、Hi-Zインストゥルメント入力に接続した楽器のレベル設定にAuto-Gainを使用しないでください。

(11) DIRECTボタン

選択したチャンネルのダイレクトモニタリングをオン／オフするには、DIRECTボタンを押します。ダイレクトモニタリングは、ToneおよびMax処理を含むモニター対象入力からのオーディオを直接出力へ送ります。また、ダイレクトモニタリングにより、UAD Consoleの入力チャンネルのミュートが解除されます。
詳細については、ダイレクトモニタリングの使用を参照してください。

(12) DIM/TALKボタン

内蔵トークバックマイクをオンにすると同時に、モニター出力の音量を20 dB下げます。押して離すと機能がラッチされ、長押しするとモメンタリー操作になります。

ヒント：モメンタリーモード（長押し）では、ボタンを押している間のみトークバックがアクティブになるため、誤ってトークバックをオンにしたままにすることなく、素早くコミュニケーションを取るのに便利です。

(13) ALTボタン

ALTボタンは、サブスピーカーでの代替モニタリング用に、メインステレオミックスをライン出力3-4へルーティングします。ALTモードを切り替えるには、ALTボタンを押します。

重要：ALTによってライン出力3-4の既存の割り当てが誤って上書きされるのを防ぐため、この機能を使用する前に、まずALT機能を有効にする必要があります。ALTボタンが点灯していない場合、機能はまだ有効になっていません。
詳細については、代替モニタースピーカーの使用を参照してください。

(14) Monitor/Headphoneボタン

ノブとディスプレイの出力を選択するために押します。このボタンを繰り返し押すと、モニター出力とヘッドフォン出力が切り替わります。Monitorが選択されている場合はボタンのラベルが緑色に点灯し、Headphonesが選択されている場合はアンバーに点灯します。
詳細については、出力音量の選択と調整を参照してください。

(15) エンコーダーノブ

このノブは、回転とブッシュボタンの2つの機能を備えたコントロールで、現在選択されている機能に応じてさまざまな設定を調整できます。

ノブを回して以下を調整します：

- プリアンプチャンネルが選択されている場合は入力ゲイン
- Monitor出力が選択されている場合はMonitorの音量
- Headphone出力が選択されている場合はHeadphoneの音量

ライン入力が選択されている場合、ノブは無効になります。

ヒント：微調整を行う場合はノブをゆっくり回し、素早く調整する場合はノブを速く回します。

ノブを押して、以下の操作を行います：

- Monitorが選択されている場合はMonitor出力をミュートします
- Headphoneが選択されている場合はHeadphone出力をミュートします

ノブを長押しして、以下の操作を行います：

- Input/Meter Viewおよびクリッププロテクションメニューを表示します
- メニューの表示中にノブを回して機能を選択します
- ノブを押して機能のオン／オフを切り替えるか、メニューを終了します

Volt 4 Max リアパネル



Volt 4 Max リアパネル

(16) XLR/TRSコンボ入力 1-2

2つのXLR/1/4”コンボジャックは、XLRまたは1/4” TS/TRSプラグに対応しています。XLRおよび1/4”コンボジャック入力では、Voltプリアンプ、Tone Shaping、Maxコンプレッションを使用します。48Vファンタム電源はXLRジャックにのみ供給されます。

- XLRケーブルでマイクを接続します
- 1/4” TRSまたはTSケーブルでキーボードやその他のオーディオ機器を接続します
- INPUTボタンでチャンネルを選択し、ノブを回してコンボ入力のプリアンプゲインを調整します

注意：該当するチャンネルの前面にあるインストゥルメントジャックにケーブルが接続されている場合、そのチャンネルのファンタム電源は無効になります。

(17) ライン入力 3-4

これら2つの1/4インチTRSバランス入力には、シンセサイザー、ドラムマシン、またはその他のラインレベルのオーディオソースを接続します。

(18) モニターL/R出力

モニター出力には、ステレオスピーカーシステムを接続します。TSまたはTRS 1/4インチケーブルを使用して、左スピーカーをMON OUT 1/Lに、右スピーカーをMON OUT 2/Rに接続します。

注意：モニター出力はパワードではありません。アクティブ（パワード）モニタースピーカー、または独立したアンプとパッシブスピーカーが必要です。

モニター出力の音量を調整するには、まずMonitor/Headphoneボタンで出力を選択し、ノブを回して調整します。

(19) ライン3-4出力

TSまたはTRS 1/4インチケーブルを使用して、これらのアサイナブル出力を他のオーディオ機器のラインレベル入力に接続します。ライン出力は通常、代替のモニタースピーカー、キュー出力用のヘッドホンアンプ、その他の外部オーディオ機器への出力として使用します。

(20) MIDI I/O

標準の1/8インチ（3.5 mm）TRS MIDI Type Aケーブルを使用して、MIDIデバイスをVoltに接続できます。デバイスのMIDI OUTをVoltのMIDI INに、デバイスのMIDI INをVoltのMIDI OUTに接続します。

詳細については、MIDIの使用を参照してください。

(21) HUBポート

このUSB 2.0拡張ポートには、他のUSBデバイスを接続します。たとえば、MIDIコントローラーやiLok USBなどを接続できます。また、ADAT拡張用にVolt 876をこのポートに接続することも可能です。このポートは、ホストコンピューターへの接続やUSB電源の供給には使用しません。

HUBポートは最大0.5Aの5VDCを供給します。出力電力が不足する場合は、付属の電源を接続する必要がある場合があります。

(22) HOSTポート

付属のUSB-Cケーブル、または別のデータケーブルを使用して、HOSTポートをコンピューターのUSB 2.0（以降）ポートに接続します。コンピューター側のポートはUSB-C、USB-Aのどちらでもかまいません。USB 2.0以上の規格に対応したデータケーブルであれば、どれでも使用できます。

iOSおよびiPadデバイスの場合、USB-Cケーブル（USB-Cポート搭載デバイス）、またはApple Lightning - USBカメラアダプタ（Lightningポート搭載デバイス）を使用してVoltを接続します。

このポートに接続したコンピューターから、Voltにバスパワーが供給されます。

(23) 5VDCポート

USB HOSTポートからVoltを動作させるのに十分なバスパワーが得られない場合は、このポートを適切な5VDC USB電源に接続してください。

注意： Voltを認識させるには、VoltのHOSTポート経由でコンピューターに接続されている必要があります。

(24) オプティカル入力

他の機器のデジタルオーディオ出力ポートを、このTOSLINKオプティカル入力に接続します。

TOSLINKポートは、ADAT Lightpipeオプティカルインターフェイスまたは S/PDIF プロトコルを使用します。標準的なTOSLINKオプティカルケーブルを使用して、最大8チャンネルのADATオーディオ、または2チャンネルのS/PDIFオーディオを入力できます。

詳細については、「オプティカル入力の使用」を参照してください。

(25) 電源スイッチ

このロッカースイッチを使用してVoltの電源を入れます。

Voltを工場出荷時の設定にリセットする

Voltをデフォルト値にリセットするには、以下の手順に従ってください。

1. Volt本体の電源を切ります。
2. TONEボタンと48Vボタンの両方を長押ししながら、本体の電源を入れます。
3. すべてのボタンの上部にあるバックライト付きテキストが4回点滅するのを待ってから、• ボタンを離します。

Volt 4 Maxの仕様

注意： すべての仕様は予告なく変更される場合があります。

システム

I/O構成

- マイク／ラインプリアンプ入力：コンボXLR/TRS 2系統
- インストゥルメント入力：¼” TS 2系統
- ライン入力：¼” TRS 2系統
- ライン出力：4系統（モニター出力を含む）

- モニター出力（MONまたはALTを選択可能）：ライン出力1-2または3-4
- ヘッドフォン出力：1/4”ステレオ1基、1/8”ステレオ1基
- USB（Type-Cコネクター）：
    - USB 2.0ホストポート（バスパワー対応）1基
    - USB 5VDC電源ポート1基
    - USB ハブポート1基
- MIDI：イン、アウト（3.5 mm Type-A 2基）

A/D - D/A変換

- 対応サンプルレート（kHz）：44.1、48、88.2、96、176.4、192
- ビット深度：32
- 同時A/D変換：4チャンネル
- 同時D/A変換：6チャンネル（メイン4、ステレオヘッドフォン1）

アナログI/O

マイク、ライン、インストゥルメント入力（ACカップリング）

- ゲイン幅：60 dB
- Tone Shaping（チャンネルごとに選択可能）：Warmth、Focus、Shine
- Max Processing（チャンネルごとに選択可能）：Great Vocal、Rap Vocal、Album Vocal、Electric Guitar、Jangly Acoustic、Tight Bass

マイク入力

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.08 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：119 dB
- 全高調波歪率+ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-110 dB（0.0003 %）
- 最大入力レベル：14 dBu
- 入力インピーダンス：2 kΩ
- ファンタム電源：+48V（チャンネルごとに切り替え可能）
- コネクタータイプ：XLRメス、2番ホット

インストゥルメント入力

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.02 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：116 dB
- 全高調波歪率+ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-108 dB（0.0004 %）
- 最大入力レベル：13 dBu
- 入力インピーダンス：1 MΩ
- コネクタータイプ：1/4” TSアンバランス

ライン入力

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.05 dB

- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：119 dB
- THD＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-108 dB（0.0004 %）
- 最大入力レベル：22 dBu
- 入力インピーダンス：10 kOhms
- コネクタータイプ：1/4インチ TRSバランスまたはTSアンバランス

モニター＆ライン出力（DCカップリング）

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.05 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：126 dB
- THD＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-112 dB（0.0003 %）
- 最大出力レベル：20.2 dBu
- 出力インピーダンス：200 Ohms
- コネクタータイプ：1/4インチ TRSバランス

ステレオヘッドフォン出力（DCカップリング）

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.08 dB
- ダイナミックレンジ（300 Ohms、Aウェイト）：116 dB
- THD＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS、300 Ohms）：-103 dB（0.0007 %）
- 最大出力（32 Ohms時）：チャンネルあたり45 mW
- 最大出力（300 Ohms時）：チャンネルあたり24 mW
- コネクタータイプ：1/4インチ TRSステレオ

DIGITAL入力

S/PDIF

- コネクタータイプ：オプティカルTOSLINK JIS F05（ADATと共有）
- フォーマット：IEC 958
- 対応サンプルレート（kHz）：44.1、48、88.2、96、176.4、192

ADAT

- コネクタータイプ：オプティカルTOSLINK JIS F05（S/PDIFと共有）
- フォーマット：ADAT Digital Lightpipe（S/MUX対応）
- 対応サンプルレート（kHz）：44.1、48、88.2、96、176.4、192
- チャンネル割り当て @ 44.1 kHz、48 kHz：チャンネル1～8
- チャンネル割り当て @ 88.2 kHz、96 kHz：チャンネル1～4
- チャンネル割り当て @ 176.4 kHz、192 kHz：チャンネル1～2

同期ソース

- インターナル、ADAT、S/PDIF

電気仕様

- DC入力コネクタータイプ：USB-C
- DC要件：5VDC
- 消費電力（5VDC時）：標準 5.5 W、最大 7.1 W

環境仕様

- 周囲温度範囲：32° ～ 104° F（0° ～ 40° C）

物理仕様

寸法

- シャーシ（ノブを含む）：幅 x 奥行 x 高さ 7.5 x 4.5 x 2.1 in（18.1 x 11.5 x 5.4 cm）
- 梱包箱：幅 x 奥行 x 高さ 9.3 x 5.3 x 4.7 in（23.6 x 14.6 x 12.0 cm）

重量

- 梱包重量（箱および付属品を含む）：3.0 lbs（1.4 kg）
- 重量（本体のみ）：1.4 lbs（0.6 kg）

パッケージ内容

- Volt 4 Max USBオーディオインターフェイス
- 1 m USBケーブル（Type-C - Type-C）
- 外部電源（ACアダプターキット付き）
- 重要な安全上の注意
- エンドユーザーライセンス契約

注意事項



重要な安全上の注意

1. これらの安全上の注意と製品の取扱説明書をお読みください。
2. これらの安全上の注意と製品の取扱説明書を保管してください。製品を第三者に譲渡する際は、必ずすべての説明書を添付してください。
3. すべての警告に注意してください。
4. すべての指示に従ってください。
5. 本機器を水の近くで使用しないでください。
6. 製品の清掃は、電源から外した状態でのみ行ってください。清掃には乾いた布のみを使用してください。

7. 通風孔を塞がないでください。製造元の指示に従って設置してください。
8. ラジエーター、ヒーター、ストーブ、またはその他の発熱機器（アンプを含む）などの熱源の近くには設置しないでください。
9. 本製品は、電源ユニットに表示されている仕様の電源でのみ使用してください。
10. 電源コード、特にプラグ、コンセント、および機器から引き出されている部分が、踏まれたり挟まれたりしないように保護してください。
11. 製造元が指定した付属品／アクセサリーのみを使用してください。
12. 雷雨の際、または長期間使用しない場合は、本機器のプラグを抜いてください。
13. すべての修理については、資格のあるサービス担当者にご依頼ください。電源コードやプラグの損傷、機器への液体の飛散や異物の落下、雨や湿気にさらされた場合、正常に動作しない場合、または機器を落とした場合など、機器が何らかの形で損傷した場合は、修理が必要です。
14. **警告：**火災や感電のリスクを軽減するため、本機器を雨や湿気にさらさないでください。花瓶など液体の入った物を本機器の上に置かないでください。
15. 本機器をAC電源から完全に切断するには、電源コードのプラグをACコンセントから抜いてください。
16. 電源コードの主電源プラグは、いつでもすぐに手が届く状態にしておいてください。
17. 製品のハウジングを開けようとしないでください。お客様ご自身で製品を開けた場合、保証は無効になります。
18. 製品の電源を入れる前に、周囲の温度に馴染ませてください。
19. **注意：**信号レベルが高いと、聴力やスピーカーに損傷を与える可能性があります。製品の電源を入れる前に、接続されているオーディオ機器の音量を下げてください。これにより、音響フィードバックを防ぐこともできます。
20. **使用目的：**本製品は屋内での使用を目的に設計されています。本製品は商業目的で使用することができます。該当する取扱説明書に記載されていない用途で本製品を使用した場合、不適切な使用と見なされます。Universal Audioは、本製品およびその付属品／アクセサリーの不適切な使用または誤用から生じた損害について、一切の責任を負いません。本製品を稼働させる前に、各国の規制を遵守してください。

製造元宣言

保証

本製品には限定保証が適用されます。最新の保証条件については、uaudio.com/eulaをご覧ください。



メンテナンス

- **注意：**感電のリスクを軽減するため、本体を開けないでください。
- 本製品には、ユーザーが交換可能な部品（ヒューズなど）は含まれていません。本機は工場出荷時に内部でキャリブレーションされているため、ユーザーによる内部の調整はできません。

修理サービス

ハードウェアに関するトラブルが発生した場合は、まずシステムのセットアップ、接続、操作手順をすべて確認してください。それでも問題が解決しない場合は、当社のテクニカルサポートチームにお問い合わせください。

修理サービスに関する情報、またはUniversal Audio / UAカスタマーケアへのお問い合わせについては、help.uaudio.comをご覧ください。

廃棄に関する注意事項

以下の要件に準拠しています：

WEEE指令（2012/19/EU）



製品、バッテリー／充電式バッテリー（該当する場合）、および／またはパッケージに記載されているバツ印の付いた車輪付きゴミ箱のマークは、これらの製品を一般家庭ごみと一緒に廃棄してはならず、耐用年数が終了した時点で分別して廃棄しなければならないことを示しています。パッケージの廃棄については、お住まいの国で適用される廃棄物の分別に関する法的規制に従ってください。

これらの製品のリサイクルに関する詳細情報は、地方自治体または地域の回収拠点から入手できます。廃電気電子機器、バッテリー／充電式バッテリー（該当する場合）、およびパッケージの分別収集は、再利用やリサイクルを促進し、これらの製品に含まれる可能性のある有害物質などによる悪影響を防ぐために行われます。これにより、環境と公衆衛生の保護に重要な貢献をすることができます。

適合宣言

FCC：本デバイスはFCC規則パート15に準拠しています。動作は次の2つの条件に従います：(1) 本デバイスは有害な干渉を引き起こさないこと、および (2) 本デバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信したいかなる干渉も許容しなければならないこと。

CANADA：カナダのICES-003 Class Bに準拠しています / Conforme au reglement Canadien NMB-003 Classe B。

CE：本デバイスはテストの結果、EC電磁両立性指令2014/30/EUの制限に準拠していることが確認されています。

エンドユーザー使用許諾契約

ソフトウェアに関するお客様の権利は、付属のエンドユーザー使用許諾契約によって規定されます。この契約のコピーは、www.uaudio.com/eulaでご覧いただけます。

著作権および商標

© 2026 ユニバーサル・オーディオ / Universal Audio, Inc. All rights reserved worldwide. 「ユニバーサル・オーディオ / Universal Audio」の名称、Universal Audio / UAの「ダイヤモンド」ロゴ、および「Universal Audio / UA Volt」は、ユニバーサル・オーディオ / Universal Audio, Inc.の商標または登録商標です。本書に記載されているその他のすべての製品および商標は、それぞれの所有者に帰属します。

ASIOは、Steinberg Media Technologies GmbHの商標およびソフトウェアです。

免責事項

本マニュアルに含まれる情報は予告なく変更される場合があります。ユニバーサル・オーディオ / Universal Audio, Inc.は、商品性および特定目的への適合性の黙示の保証を含むがこれに限定されない、本マニュアルに関するいかなる種類の保証も行いません。ユニバーサル・オーディオ / Universal Audio, Inc.は、本書に含まれる誤り、または本資料の提供、性能、もしくは使用に関連する直接的、間接的、特別、付随的、または結果的損害について、一切の責任を負いません。